岩崎　純一　著

『岩崎純一全集』　第五十六巻「科学技術、産業（一の六）」

コンピューター、情報技術、電気通信産業、情報産業、バーチャルリアリティ、メタバース

編纂、監修　　岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

『岩崎純一全集』第五十六巻「科学技術、産業（一の六）」

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第五十六巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、コンピューター、情報技術、電気通信産業、情報産業、バーチャルリアリティ、メタバースに関する述作を収める。

目次

巻頭言
第一編　〇歳～十九歳
第二編　二十歳～二十九歳
第三編　三十歳～三十九歳
第一部　Windows 8.1
第二部　米国の諜報活動（米軍・NSA・CIA などの通信監視計画「PRISM」を例に）
第三部　さようなら、Windows XP（その 1）
第四部　さようなら、Windows XP（その 2）
第五部　こんな時こそ理研を活用！！
第六部　どうとらえてよいのかよく分からない XP 関連のサポート延長情報
第七部　XP マシンの隠蔽が推奨される中、早速 XP 関連トラブルで一部の病院の機能が停止
第八部　Ubuntu 14.04 LTS リリース
第九部　Internet Explorer の脆弱性の件
第十部　ブラウザ界の仲間外れ「Internet Explorer」
第十一部　OS・ブラウザの世界分布から見る中東問題・帝国植民地主義・日本のサイバーテロ対策
第十二部　魔の Windows 10 無料アップグレード期間
第四編　四十歳～四十九歳
第五編　五十歳～五十九歳
第六編　六十歳～六十九歳
第七編　七十歳以降
第八編　著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるもの
第九編　著作権者が岩崎純一であるもの

第三編　三十歳～三十九歳

第一部　Windows 8.1

2013 年 10 月 20 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

いよいよ Windows 8.1 が発売されましたね。
8.1 からは、SkyDrive と OS の融合により、以下の記事で書いたような事態がいっそう増える気がします。

https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/78737644.html

XP のサポート停止は、何が問題かというと、XP の普及率が高いことを考慮していないことというよりは、パソコン初心者や高齢者までもが新 OS に乗り換えなければならない点だと思います。
上記の記事で書いたような形で、誤って自分のパソコン内のファイルを公開してしまっているのは、どうしてもそういう方々がほとんどになってしまうかと思います。
しかし、そういう場合でも、ミスしたのがユーザーであることに変わりはないし、公開されたファイルは当然、不特定多数の人の目に触れることになります。だから、そういった点についての危機意識がない場合は、やはり SkyDrive の使用自体を控えたほうが良いと思います。
（Microsoft としては、公開されたファイルに限らず、アップロードされたユーザーの全てのファイルに元々アクセスできるようになっていると思いますが。）
その意味では、標準でのディスク媒体による販売がなくなった Office 2013 について起きている反発とは質の違う状況だと思います。どちらかというと、Office 2013 の場合、ユーザー側のミスや不慣れにのみ原因があるのではなく、Microsoft の方針・コンセプトの不親切さのほうにも原因がある気がします。
アプリケーションソフトのインストールについての「もう CD・DVD ディスク自体がいらないのではないか」という発想は、限界効用理論のゴッセンの法則の影響を真正面から受け続ける（次々と「テコ入れ」や「イノベーション」を続けなければならない）ICT 業界の宿命だとは思いますが、それにしても最近は、あまりの変化の速さに驚くことが多いです。

第二部　米国の諜報活動（米軍・NSA・CIA などの通信監視計画「PRISM」を例に）

2013 年 12 月 31 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

アクセス解析のページの解説と目的（下記 URL）にも書きましたが、私のサイト・ブログでは、ご訪問者の関心を知るために、アクセス解析をしています。
それに加えて、ご訪問者が他のご訪問者の閲覧行動を参考にすることで目的のコンテンツを探しやすくなるように、最近データをまとめて掲載しました。（先日の以下の記事をご参照。）

当サイト・ブログのアクセス解析の方法
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/83133482.html

驚かれた方もいらっしゃるかと思いますが、しばしば「岩崎さんのサイトは広大すぎて、あの話題がどこにあるか分からなくなった」というお問い合わせを頂くので、このようにしました。

http://iwasakijunichi.net/analysis/

さて、以下は専門的・技術的な話です。
解析データ取得方法にも書きましたが、2013 年の途中（8・9 月あたり）から Google が Google 検索における全ての通信を SSL 化（暗号化）しました。非常に分かりやすく言うと、普通に Google 検索してみると、検索結果の URL の冒頭が「http」ではなく「https」となってしまうのがほぼそれに当たります。
これがアクセス解析をするサイト運営者側にとっては何を意味するかというと、Google

検索を使って訪れた訪問者の検索クエリ（情報要求としての検索キーワード）が取得できないケースが増えるということです。
（それは、Google の解析技術 Google Analytics が取得している検索クエリのほとんどが Yahoo!、Excite、goo などの他の検索エンジンからのそれらであり、Google 自身の SSL 化された検索サービスである Google 検索からの検索クエリは、ほとんどが「not provided＝取得不能」として処理されることを意味します。）

Google 検索の SSL 化を解説している他のサイト
http://www.sem-r.com/google-2010/20130924052529.html
http://www.roundup-strategy.jp/mt/archives/2013/10/google-not-provided-100.html

現在では、もはや http://www.google.co.jp/にさえアクセスできず、この URL を打ち込むと https://www.google.co.jp/に強制的にリダイレクトされます。SSL 検索の適用は、IE よりも Firefox や本家本元の Chrome のほうが早かったですが、今ではブラウザは何を使おうが無関係です。

しかも、Google アカウントにログインしているかいないかも関係なくなっているため、呑気に「ググる」という造語まで造ってググっている日本の若者たちも、知らずに SSL 検索をしているわけです。（SSL 検索化には後述するような裏がある。）

しかし、これだけなら、私のような（サイトビジネスなんて考えていない個人の）サイト運営者にはダメージが小さいと言えます。元より、日本では Yahoo!検索の利用者数のほうが Google 検索の利用者数をかろうじて上回っていますし、私のサイトへの到達の際のトップ検索キーワードである「共感覚」や「アスペルガー」、「解離性障害」、「直観像記憶」などといったキーワードは、多くが Yahoo!から検索されたものでしょう。

一般の主婦の方々などは、Yahoo!ニュースを見ているついでに、「共感覚」や「アスペルガー」などの聞き慣れないキーワードをふと検索したら、岩崎純一という人のサイトに行き着いた、というようなルートを辿っていらっしゃるかと思います。

Google 検索は、上記のような単語を検索するだけなら使いやすいですが、Google 検索や Google Analytics の利用者には元より技術者も多いですし、あんな超高機能の検索や解析技術は、元来自分でサイトソースを記述したりプログラムを組んだりしているくらいの人でないと使いこなせないと思います。

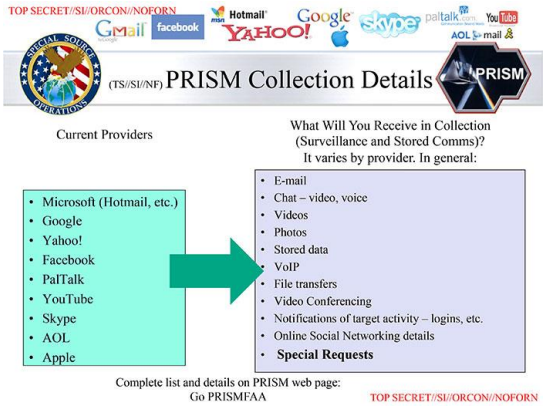
Google 検索の全 SSL 化に対してできることと言えば、かなり少なくなっており、あとはサイト管理者の技術の問題になってきます。私のサイトは PHP、Perl、JavaScript などを組み合わせてアクセス情報を取得していますが、それでも、Google 検索で打ち込まれた検索キーワードのほとんどは、ものの見事に隠されていて取得できません。かろうじて、以下の私のページに Google 検索による URL の一部が記録され、そこからキーワードが確認できる程度です。

http://iwasakijunichi.net/ranking/rank.html

以下の Google の公式声明でも、「Google 検索結果ページから別のウェブサイトにアクセスすると、そのウェブサイトでは、どこからそのサイトにアクセスしたか、および使用した検索キーワードを特定できる可能性」があることが示されていますが、Google はこのような手法でのクエリ取得も今後は防御していくものと思われます。

https://support.google.com/websearch/answer/173733?hl=ja

興味深いのは、Google が黙って勝手に SSL 検索化を推し進めたことであり、かつこれがアメリカ政府当局、とりわけ NSA や CIA による諜報活動の一環であることが判明したことです。Google も、あとでしぶしぶその活動の一端を認めています。



SSL 化は、セキュリティーの向上とプライバシーの保護だけが目的ではなく、特にアメリカ国家安全保障局（NSA）や CIA による PRISM 計画（世界中のユーザーの電子メール・文書・SNS の内容・顔写真・その他電話などの通信内容についての監視・傍受・情報収集計画）と関係があるようです。

PRISM (監視プログラム)
http://ja.wikipedia.org/wiki/PRISM_%28%E7%9B%A3%E8%A6%96%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%29

エドワード・スノーデン氏が最初にこれらの一端を暴露したのが今年の 3 月ですから、ちょうど Google にとっては、SSL 検索化を PRISM 対策の口実とするよいタイミングだったと思われます。

しかし、本当は PRISM 計画がスノーデン氏や英ガーディアン紙やワシントンポスト紙によって暴露されたことで一番焦ったのは、Google だと思います。現在、PRISM 計画に協力していることが判明している企業は、Microsoft、Apple、Yahoo!、Facebook、AOL、Skype などで、そして、まさに Google こそその代表格であり、Google 傘下の YouTube も協力しています。

Google 検索の SSL 化は、NSA や CIA が仕掛けてくるクラッキングや傍受に対してセキュリティーを向上させ検索ユーザーの個人情報を保護することではなく、逆に NSA の情報監視計画に本格的に参画するための足掛かりなのだろうと見受けられます。NSA や CIA などの政府当局と Google などの企業がタッグを組んで、スノーデン氏のような（彼らにとっては）裏切り者の息の根を止めるために、暗号化技術を逆手に取ったということもあると思います。

結局のところ、SSL 検索化によっては、我々一般利用者の目に他の一般利用者の情報が隠されるということに過ぎません。アメリカ政府や NSA と、それらに対して表向きは反発している Google などだけは、世界中の恋人や夫婦たちのメールや SNS での会話を盗み見できるというわけです。いやはや、便利なものですね。日本にはそんな技術はないと思います・・・。

私は、SNS と言えば今でも mixi や Twitter を使っていますが、それは技術力が適度に低い（技術力の結集が甘くて、アメリカ政府や Google レベルから優先的に傍受の対象とされない）からであり、一方で Google+や Facebook に何でもかんでも載せている人は、まず間違いなくアメリカや Google に思いっきりプライベート情報を抜かれていると思っておいたほうがよいと思います。日本人であっても同じことです。

最近では、アメリカ政府や NSA、CIA が他国政府の通信を傍受していることも、普通にニュースで報道されるようになっています。日本の米軍基地関連の問題にしても、相手にしていても埒が明かない日本政府を通さずに、直接に沖縄県民や日本国民の電子メールや SNS の内容を傍受して世論の動向を知り、どこに基地を移設すれば最も世論の反発が小さいかを見極めたり、時には世論を操作・扇動するほうが手っ取り早いとアメリカに思われても、仕方がないと思います。

尖閣漁船事件の映像も、その真相が、政府筋から漏れずに、海上保安官の個人的な行動によって漏れたのですから、どこに潜んでいるか分からない他国の国家機密情報を探るために、セキュリティー意識があまりない日本の SNS ユーザーの個人情報や通信内容、検索クエリ、所持画像、所持映像などを探ることでその国の真相を知ろうとすることは、軍事的にも一つの常識なのかもしれません。もちろん、アメリカ政府や NSA や CIA や Google だけが持っている、Google Analytics をはるかに超えた解析技術や高度なクラッキング・傍受技術によって行われていると思いますが。

SSL 検索化の表向きの口実の一つに「Search plus Your World」がありますが、本当に表向きで、実際には、Google+を利用して公開・共有された個人情報は SSL 検索化に伴っ

て、どんどんパーソナライズされています。

一見すると論理矛盾ですが、パーソナライズ検索が可能になるのは、Google が少なくとも先進国の SNS ユーザーや Google の SSL 検索ユーザーといった末端の個人のプライバシー情報を徹底的に取得しているからで、実際、個人的に Google から追われているとしか思えないようなパーソナライズ検索結果を、多くの Google+ユーザーに対して出すことが可能になっています。

http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/column/infostand/20120116_504861.html

mixi については、（簡単にクラッキングできるので、クラッキングする楽しみがないという意味で）「PRISM 計画からも Google からも相手にされない、お遊び程度の SNS だ」という発言が、欧米のクラッカーや技術者たちの間で見られますが、Facebook は、それ以上の技術で作られているからこそ、危ないと思います。Facebook 上の個人情報は NSA や CIA、はたまた Google が監視しており、自由に利用できる状態にあるでしょうし、そのために規約も書き変えられ続けていることに、多くのユーザーが気づいていないと思います。

アメリカや Google がやろうとしている情報監視・操作は、日本の特定秘密保護法のような法整備で対応できるようなものではないと思います。

【画像出典】

PRISM (監視プログラム)
http://ja.wikipedia.org/wiki/PRISM_%28%E7%9B%A3%E8%A6%96%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%A0%29

第三部　さようなら、Windows XP（その 1）

2014 年 3 月 29 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

いよいよ一つの時代の終わりが迫ってきました。「さようなら」よりは「ありがとう」と言うべきかもしれませんが、ともかく Windows XP の時代が「表向きは」4 月 8 日～9 日

に終わりを告げることになったわけです。（経度によって日付は異なります。）

4 月の日本の二大事件は、消費税増税（4 月 1 日）と、この XP の延長サポートの終了（4 月 8 日。日本時間だと 9 日）ですね。パソコン・OS・周辺機器を買い替える人にとっては、ダブルダメージですね。

また、XP と同時に Office 2003 と Internet Explorer 6～8（XP 向けの 8 のみ）のサポートも切れます。

しかし、官公庁・自治体が XP を使い続けると豪語しているくらいですし、個人・家庭においても完全移行は無理、不可能でしょうね。

順番が逆だったら、少しは事情が違ったと思います。パソコン初心者が、XP のサポートが切れた瞬間から増税の日までの一週間に巷で何が起きたかを見計らってから、詳しい人にどのパソコンがよいかを聞いて回れるからです。そうでないがために、パソコンや OS に詳しい人ばかりが、すでに Windows 7 や 8、8.1 に乗り換えたり Windows 以外の OS に乗り換えたりして、準備万端の状態で 9 日を迎えるというわけです。

私の場合、昨年の 9 月から今月末まで、大体 10～12 台くらいの XP 搭載パソコンの移行・更新作業に追われていました。（それぞれに大変さが違ったので、大まかにしかカウントできませんが。）

パソコン所有者・使用者によって希望やこだわりが違うので、基本的にはその人に合わせないといけません。しかし、Outlook Express など、XP までしか使えないソフトについては、使う人がそれらを卒業し、新しいソフトを頑張って覚えるしかないのです・・・。

今日も近くのヤマダ電機に行ったら、ものすごい人でした。私が見た同店の人数としては、圧倒的に過去最多でした。

XP は非常に出来の良い OS でした。延長サポートを含めて 12 年以上のサポートというのは、Windows OS としてはあまりにも長期政権でした。私の場合、この自分のサイト・ブログ更新用パソコンは、XP のものを主に使用していました。こちらも 7 への移行はすでに終えていますが、サイトのソースを動作の軽いテキストエディタで手書きするのが好きな私としては、XP も 7 もそんなに違いは感じません。

さすがに自分の共感覚や和歌のコンテンツ・データベース、音楽や動画の制作・保存・再生などの重量級の作業になると、違いを感じます。全体としては、当然ながら 7 以降が良いと言えます。ただ、私は（巷ではパソコンのスペックを考える上で最重要のテーマと思われる）ゲームをしないので、ゲーム関連の情報は全く追っていません。

ところで、私は Microsoft の回し者でも何でもありませんが、周りの Windows ユーザーの方々や巷の Windows ユーザー動向の意識を見ていて、かなり気になることがあるので、一応書いておきます。

そもそも、XP のサポートが終了するという事実は、急に出てきた話ではないわけです。Microsoft 自身が以前より具体的な日付を告知し、個人にも企業にも長い準備期間を与えています。しかも、本来なら 2011 年でサポートが終わっていたはずのものを、今年まで延ば

してきたわけです。無論、このサポートは無料です。

もしXPのサポート終了が、Microsoftの新OS（7、8、8.1）の売り上げを伸ばすことだけを目的としているのならば、同社は早期にXPのサポートをやめていた上、意図的にXPのサポート終了の年月日の告知を遅らせた上で新OSを喧伝したはずです。（世の中には、そういうOSだってあります。）

だから、何でもかんでもMicrosoftの策略だと決めつけるのはよくないと思います。「できることなら」サポート終了後はXPの使用はなるべく控えたほうがよいというのは、本当だとしか言いようがないと思います。現実には、多くの人が使い続けると思いますし、仕方のないことだとも思いますが。

しかし、一番問題なのは、「XP を使い続けること自体」よりも「ユビキタス社会に生きる人間の危機意識の低さ」だと思います。それが、このXP問題に如実に表れていると思います。

必ずしも、経済的余裕のある人（企業）が率先してOSを乗り換えているわけでもないし、経済的余裕のない人（企業）がOSの乗り換えに遅れているわけでもないようです。

「自分（自社）はXPを使い続ける」と答えている人（企業）が相当数いる（ある）のに「XPを使い続ける人や企業は信用しない」と答えている人（企業）も相当数いる（ある）、という巷のアンケート結果を最近目にします。どこまで信憑性があるかは分かりませんが、そういう意識でいる人（企業）が多いなというのは、確かに感じます。

XPからの移行が進んでいない原因は、アプリケーションソフトの互換性や経済的負担の問題以上に、多くのユーザーや企業の身勝手な意識（OSに対する甘い意識のみならず、ユビキタス社会に対する甘い意識）のほうにあると私は思います。

本来なら、「自分（自社）が使い続けるなら、そういう他の人や企業も許す」、もしくは「自分（自社）も使わないし、他の人にも企業にも使わないことを求める」、もしくは「自分（自社）はXPを使わないが、使い続ける人がいたり企業があったとしても、自分のことではないからどうしようもない」のどれかしか回答がないはずなのですが・・・。

【調査例】XP使用の中小企業、サポート終了後も５３％が「このまま使う」　大阪信金調査　2014.3.20
http://sankei.jp.msn.com/economy/news/140320/biz14032017470030-n1.htm（リンク切れ）

結局、「XP はもう使ったらダメ」を前提に、色んなメーカーが 8.1 やダウングレード版の 7 の搭載パソコンを大々的に出している状況というわけです。ダウングレード版は、今は個人向けの場合も、法人向けパソコンを個人向けとして出している場合が多く、画像ソフトや年賀状ソフトなど、初心者向けのプリインストールソフトが無いものが多いので、要注意です。

XPを使い続けることで自分のパソコンがマルウェアに感染し、データの漏洩や破壊が起

きるだけなら、自業自得だし、第三者には関係ないと言えますが、XP を使い続けること自体が見ず知らずの他人に迷惑をかけていることになりうるというのが、残念ながら一番のポイントだと思います。

他人のパソコンに自分がマルウェアを感染させていること自体に自分で気づかない場合が多いということです。

（今も 98 や Me を使っている人がいるから XP も大丈夫だと言う人がいますが、個人・企業共に OS の占有率が XP とは全然違って低いし、今は 98 や Me をピンポイントで攻撃するクラッカーはほとんどいない状況です。）

殊にパソコンに関しては、そこが「自宅の防犯」とは異なる点だと言えます。家のカギをかけていなくて空き巣に遭ったところで、困るのは自分と家人だけですが、パソコンはそうはいきません。多くの場合、自分のパソコンのカギをかけ忘れること（古い OS を使ったり、セキュリティソフトを入れなかったりすること）が、病気のウイルスを携えて人の家に空き巣に入っているようなものだからです。

「パソコンをあまり詳しく知らない人が、便利だからという理由だけでパソコンを使わないほうがよい」というのは、一見暴論ではありますが、そうとしか言いようがない時代だとも思ってしまいます。最近のパソコン・OS は、初心者や高齢者に使いこなせるわけがないほどのハイスペック・高機能を持っています。

だからこそ、パソコンに詳しい人は、どうしてもパソコンを便利に使いたいと言う懇意な初心者（知人・友人・同僚など）から頼まれてその人のパソコンをいじった際には、「今、あなたのパソコンに何の目的で何をインストールしたか、OS とは何であるか」といったことを一通り丁寧に解説することが望ましいと思います。パソコンを使いたいと言うその人と懇意である限り、その人を「パソコンをある程度知っていて、他人に迷惑をかけない人」にしてあげることは、パソコンに詳しい人の責任でもあると思うからです。ただし、そのような第三者の助言に耳を傾けない人のパソコンの面倒は、第三者が見る必要や責任がないとも思ってしまいます。

そうやって、今日のユビキタス社会において、自分の身を守り、人の身を守っていくことが望ましいと思います。

次の記事では、XP から新しい OS に移行する際に、人のパソコンをいじっていて気になった点を書いてみます。

【画像出典】

Microsoft Windows XP（Wikipedia）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Microsoft_Windows_XP

第四部　さようなら、Windows XP（その 2）

2014 年 3 月 30 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

前回（昨日）の続きです。

私の場合、今回の Windows XP、Office 2003、Internet Explorer 6～8（XP 向けの 8 のみ）のサポート延長終了に伴い、昨年 9 月くらいから今までに、知人・友人・職場の 10～12 台の XP 搭載パソコンを Vista 以降（7 がほとんど）に移行・更新したという話ですが、それらのパソコンをいじった際に気になった点を書いておきます。

昨日も書きましたが、別に私は Microsoft の回し者でも何でもありません。（などと書いたところで、疑う方がいらっしゃるはずもないでしょうけれど・・・。）

ただし、改めて書きますと、「できることなら」サポート終了後は XP の使用は控えたほうがよいとしか言いようがないと、個人的には思うわけです。

●そもそも OS を何にする？（XP→Vista、7、8、8.1、他の OS）

そもそも XP の次は何の OS にするのか。この時点で人それぞれであるわけです。特に、パソコンを共用している複数人の間で、「早く最新の OS を触りたい」、「パソコンは苦手なので、ギリギリまで使い慣れた XP とやらで行きたい」などと意見が割れている場合が、一番厄介です。

私もそんな状況に出くわしました。どちらに合わせるかは、結局、どちらに合わせれば仕事・業務・趣味などが最も早く遂行できるか（仕事・業務が遅れて他人に迷惑をかけないか）ということで決めるしかないと思います。

一般的には、XP のような操作性を求めるなら 7、最新の機能やセキュリティを求めるなら 8 か 8.1 を薦めることになりますね。案の定、「8 以降は画面がチャラチャラして仕事にならない」という人がいますし、7 が XP に代わるデファクトスタンダードになるでしょうね。

ただし、2014 年の今の時点では、個人向けの 7 搭載パソコンはほとんど出ておらず、ダウングレード権を行使した 7 搭載の法人向けパソコンを個人事業主・SOHO 使用として買うか、今回の騒動を狙って HP（ヒューレット・パッカード）などが出している量産型の 7

搭載パソコンを買うしかありません。

それ以外で出回っている 7 搭載マシンの品質は・・・。買うなら自己責任です・・・。海賊版に注意しましょう。

元々知らずに Vista のダウングレード版として XP を使っていた人の場合は、とりあえず Vista に戻して様子を見ることにしました。戻すだけなら、その人の金銭的負担がゼロなので。（こんな時は、その人が Vista のインストールメディアを箪笥やロッカーのどこかに取っておいたという奇跡が必要なのですが、今回はその奇跡が起きました。）

●マシンごと（CPU、メモリ、マザーボードなどごと）買い替えるかどうか

OS だけをアップグレードまたはクリーンインストールするか、マシンごと買い替えるかどうかの検討も必要ですが、ともかくマシンのメンテナンスがよく分からないというメインユーザーがいる環境の場合はマシンごと買い替え、メインユーザーが OS インストールの経験がある場合で既存機のスペックが充分である場合は OS だけインストール、ということにしました。

できれば、CPU は Core i3 以上、メモリは 4GB 以上あればよいですが、Celeron、2GB 程度でも 7 以降は動くことは動きます。ほとんどの 32bit ソフトは 64bitOS 上でも動くので、今さら 32bitOS を入れる必要性はないと思いますが、32bit を入れる場合は、メモリは 8GB や 16GB を積んでも無意味で、4GB までしか意味がないので、要注意です。

●経済的負担と電気代の問題

しばしば、「XP のサポートが切れると言われても、パソコンや OS を買い替える経済的余裕がない」という人がいますが、結論から言えば、古い OS を使い続けると経済的負担（電気代）とマシンへの物理的・電磁気的負担が相当増えると言えますね。

同じ処理をするにも、古い OS のほうが電気を食いますし、CPU・メモリ・HDD・マザーボード・バッテリーの全てに負荷をかけます。

さらに、同じパソコン・CPU・メモリ・HDD・マザーボード・バッテリーでも、購入当初のそれらと経年劣化後のそれらとでは、後者のほうが電気を食いますし、それら自身に負荷をかけます。長期間交換したことがないバッテリーは、性能が平気で半分以下から 10%くらいにまで落ちます。

ただでさえ、XP はサポートが長かったわけですから、その OS ソフトである XP 以外のハード部分が全く更新・交換されたことのないパソコンが大量に使われている状況であり、結局は昨今の電力・原発問題やゴミ処理問題に直結してしまいます。

今持っているXP搭載パソコンを過度に長期に渡って使い続けることが、皮肉にも物や地球環境を大切に扱っていることにもお金を無駄に使っていないことにもならないのは、確かだと言えます。

そもそも、家計にとって最も負担の小さな情報収集のあり方は、パソコンをやめて公共図書館に行くことなどであるわけで、それはそれで立派な情報収集のあり方ですし、それだけで高い教養を身に付けている人だっています。パソコンを使っていながら、かつ「経済的余裕がないから買い換えない」という考え方には、やはり矛盾や誤りがあると感じてしまいます。

●Outlook Expressの提供終了、過去のメールのエクスポート・インポート

OS以外のソフト面では、これが一番厄介な点でした。一般のWindowsユーザーなら、Outlook や Windows Live Mail に乗り換えるしかありません。機能重視なら Outlook、Outlook Express（OE）との操作の共通性重視ならLive Mailだと思います。

人それぞれなので、それぞれ設定をしました。この三つのソフトどうしでエクスポート・インポートするだけでも、かなりの細工が必要なので、苦労しました。

OEが便利だったのにどうしてくれるんだと言う人もいますが、こればかりは仕方がありませんね。OutlookもLive mailも嫌で、契約プロバイダ標準のメール画面をブラウザで見るというところに落ち着いた人もいます。

●Microsoft Office 2013

これについても案の定、「ダウンロード購入って何だ！！」、「オンラインコードって何だ！！」、「ディスクが入っていない！！」という人が続出中ですが、そんな場合はとりあえず2010バージョンでよいと思います。

●OS更新時に必須のストレージ（HDD、SSD）

私は、自分のパソコンについても他人のパソコンについても、転送ツールを使ってデータを移行することはしないタイプで、手動でパソコンどうしをつなぐか、外部の HDD や SSDを介します。

最近人気のオンラインストレージを利用してデータを保存・移行している人も知っていますが、インターネットからも自分のOS搭載HDDからも隔絶された独立の保存先は持っ

ておくべきだと思います。（OS 搭載 HDD 上でパーティションを分けるだけでは意味がありません。）

家庭内・法人内ネットワークなら話は別ですが、誰のどのパソコン（誰がどのパソコンに接続したどの USB メモリや外部 HDD）からマルウェアが感染したかが分かるようにはしておくべきです。

SSD が台頭していますが、やはり今もまだ、よく使うファイルの一時的な保存先に SSD、大切なファイルの長期的な保存先に HDD を選ぶのがベターだという気がします。これは、まだ SSD が高価だからという価格の話よりは、データの書き込み方式の話ですが、電気的な保存の発展がまだ過渡期である一方で、磁気的に保存することの利点はまだまだあると思うからです。

SSD に関しては、さらに価格が下がり、かつ動作が安定的になる余地があると思います。Windows ユーザーなら、迷わず NTFS ファイルシステムの HDD でよいと思います。

ところで、Windows 8 から搭載されたオンラインストレージ機能の SkyDrive は、8.1 で OS に統合され（むしろ不便になったという声が多く）、今年に入って欧米圏における商標権の問題で OneDrive と名称変更されましたが、Dropbox や Google Drive に代わるオンラインストレージのデファクトスタンダードになるかどうかは不明です。

先ほども書きましたが、普段から、ネットワークや OS 搭載 HDD から隔絶された物理的媒体にデータを保存する癖をつけておくことが一番だと思います。

●セキュリティソフトのインストール

これについても、ウイルスバスターを好む人、ノートンを好む人など、人ぞれぞれに意見がバラバラなので、その人に合わせればよいと思います。明らかに機能差があれば、よい方を薦めるのですが、最近はそうでもないので。

共用パソコンの場合は、セキュリティーに一番詳しい人の意見に合わせるのが得策だと思います。

●ウェブサイトの HTML ソースの書き変え

これは、他人のパソコン自体をいじった時の話ではなく、他人のパソコンをいじって得た情報を元に私のサイトをいじった時の話ですが、書いておきます。

私は、この自分のサイト・ブログ以外に 5 つの法人・団体サイトの管理・更新をしていますが、Internet Explorer 6～8（XP 向けの 8 のみ）のサポートが終了すること、Internet Explorer 11 が出たことに伴うソースの書き換えは、そんなにしていません。

IE は、ソース解釈・互換性の問題で Mozilla Firefox や Google Chrome に劣りますが、11 は 9 や 10 よりは改善されていると感じます。

今は WordPress などの CMS や各種 Wiki などでサイトが作れますが、あくまでも自作にこだわり、サイトの制作・管理にかける労力と時間を惜しまない人は、ブラウザの変化と共に HTML 規格・標準的なソースの記法の変化を楽しむのも、一興だと思います。

●まとめ

さて、色々と書きましたが、知人・友人・職場の XP パソコン更新の際に、それらユーザーの皆様に指摘してみたことは、以上のようなことです。

あとは、サポート終了後に、巷でどれほどの数の XP パソコンがスタンドアロンではない方法で使われ続けるかに注目ですね。（USB メモリや外部 HDD、無線 LAN などを接続した時点で、スタンドアロンではありませんので、マルウェアの侵入が可能です。）

私も、このサイトでおこなっているアクセス解析の OS 分野で、XP からのアクセスがどれだけあるかに注目したいと思います。（XP 使用者を批判するためではなく、統計上の興味から。）

最近多いのは、正規版かどうかも分からない古い OS を用いた中国からのブルートフォースアタックや XSS アタックで、日本の個人 XP ユーザーを踏み台にして攻撃するようなケースも出てきそうです。市販の最新のセキュリティソフトを入れた Windows 7 マシンは、このような攻撃のほとんどを防いでくれています。

今後は、XP を使い続けて問題が起きたとしても、全ては自己責任ということになってしまいます。

【画像出典】

Microsoft Windows XP（Wikipedia）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Microsoft_Windows_XP

第五部　こんな時こそ理研を活用！！

2014 年 4 月 3 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

最近の理研・STAP 細胞を巡る問題が大変なことになっていますが、前回・前々回と書いた「さようなら、Windows XP」の記事と、理研の持つ（国費・我々の血税が投入された）屈強なサーバー設備との関連で、一つ書いてみます。
（「さようなら、～」の記事は、あくまでも Windows ユーザー向けの記事になってしまいました・・・。）

OS の入れ替えや端末・エミュレータに慣れている場合は、今回の XP のサポート終了に伴い、XP 搭載パソコンを BSD や Linux に書き変えてしまうのも手です。まずは、デュアルブート・マルチブートにして完全に環境構築が確認できてから XP を消すのが、得策だと思います。そのまま空いたパーティションに BSD や Linux を入れてもよいです。

仮想マシンを構築するのも手です。ただし、XP 上に構築したら意味がないですが。

さすがは理研、各 OS・ディストリビューションの配布は屈強なサーバー環境のもと行われており、DL 速度も各種ディストロミラーサイトよりも速いです。

Windows 7 搭載マシンと Windows XP 搭載マシンの両方がある場合は、まず 7 の標準機能でイメージファイルを焼いてから XP マシンに移せるので、7 への焼き付けソフトのインストール無しでできます。（ただし、焼き付けの前に md5・md5sum は確認しましょう。）

●理研の Software archives（OS・ディストロ配布）
http://ftp.riken.go.jp/
ftp://ftp.riken.jp/（FTP）

当然、理化学研究に適した OS の Scientific Linux がドカンと先頭にありますが、Debian や Ubuntu も落とせます。私の環境は以下のようなもので、芸術に特化したディストロばかりなので、いずれ Red Hat 系環境も試してみたいところです。

●私のサイト・コンテンツ制作環境・使用パソコン
https://iwasakijunichi.net/seisaku.html

あとは、以下が割と屈強なミラーサーバー群です。

●北陸先端科学技術大学院大学
http://ftp.jaist.ac.jp/
ftp://ftp.jaist.ac.jp/（FTP）

●山形大学
http://ftp.yz.yamagata-u.ac.jp/
ftp://ftp.yz.yamagata-u.ac.jp/（FTP）

●KDDI 研究所
http://ftp.kddilabs.jp/
ftp://ftp.kddilabs.jp/（FTP）

【画像出典】

●Debian（Wikipedia）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Debian

●Ubuntu（Wikipedia）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Ubuntu

第六部　どうとらえてよいのかよく分からない XP 関連のサポート延長情報

2014 年 4 月 9 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

いよいよ Windows XP の延長サポートが終了。いくつかサポート延長情報をメモするついでに、感想を書いてみます。

●Google が XP 用 Chrome のサポートを 2015 年 4 月まで継続と発表

http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1310/17/news038.html

ブラウザをサポートするだけの話で、OS の脆弱性には無関係なので、意味があるのかどうか・・・。

日本の XP ユーザーは、同時にほとんどが IE ユーザーだし、わざわざ Chrome を入れている人なら、とっくに OS も変えていそうなものですが。

Google が実は Google+や Analytics などの自社開発のツールを使ってかなりの個人情報を抜いているのと同じで、XP ユーザーがどれくらい残り続けるのかをブラウザ経由で偵察する目的もあると思います。XP に Chrome を入れているだけで、Google には情報が飛んでいるわけで。

あとは、勘ぐるとすれば、Google は自力で Linux ディストロを開発して社内・社員だけで使用するなどしたり、Chrome OS などの自社 OS も開発していて、OS 自体の改変にも相当慣れているし、すでに XP のカーネルについてのある程度の知識・情報を持っている、といったところかな・・・。

●イギリス政府とオランダ政府が Microsoft と Windows XP 延長サポート契約を締結

http://arstechnica.com/information-technology/2014/04/not-dead-yet-dutch-british-governments-pay-to-keep-windows-xp-alive/
http://www.computerweekly.com/news/2240217389/Government-signs-55m-Microsoft-deal-to-extend-Windows-XP-support

ついに、各国政府までもが一 OS 企業にお金を積む事態に・・・。実際は、自治体や企業も同じことをしているらしいですが。

私は個人的には、二回の「さようなら、Windows XP」でも書いたように、今回の XP 騒

動の目的が Microsoft 社の壟断だけにあるとは考えていないし、これ以上サポートを延長しろと要求するのはさすがにユーザーが傲慢すぎるのではないかと思うのですが、大金を積んだ政府や企業に対しては、言うことを聞きます、という Microsoft の意志表示なのでしょうか。

しかし、本当にこれがデマではなくて、お金を積んできた国の政府や企業にだけ Microsoft が手厚い延長サポートを始めたとなると、日本政府や日本の企業、日本の都市銀行（当時、ATM に XP マシンを大量に導入して、いまだに使用中）も早いところ同じこと（Microsoft に頭を下げてお金を摘む）をしないとまずいということになってしまいそうです。

つまりは、ちょっと眉唾物だなと思ってしまいます。（実際は本気でサポートしない気がします。イギリス政府やオランダ政府が根負けしたか、懇願した感あり・・・。）

イギリスやオランダが、かつての Microsoft による反トラスト法（アメリカの独禁法）違反のような事態の形成に加担しなければよいのですが。一つの OS の冗長な独占状態を作り上げるのは、OS 企業とユーザーとの暗黙の協力に他ならないですからね。

基本的に、各国の政府や企業が一企業の OS によってたかって金をつぎ込むのは、セキュリティ的にも危なくて、本末転倒ですよね。

【画像出典】

Microsoft Windows XP（Wikipedia）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Microsoft_Windows_XP

第七部　XP マシンの隠蔽が推奨される中、早速 XP 関連トラブルで一部の病院の機能が停止

2014 年 4 月 11 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

◆XP 問題でいくつかの病院の機能が停止、高齢者が薬をもらえずに追い返されるケース生じる（薬は後日の速達配送で対応）

特にニュースにはなっていないですが、Windows XP パソコン関連のトラブルで薬を処方することができず、後日の配送で対応する病院が出始めました。（もちろん、日本の病院

です。）

情報を流せる Twitter のような SNS を触ったことがないと思われる後期高齢者の方ばかりが通院・入院している病院のためか、（一部の非 Windows OS 以外の OS のコミュニティを除いては）びっくりするほどネットにも情報が流れておらず、すでに自力でシステムを立て直し終えている病院ばかりなので、たぶん具体的な病院名は書かないほうがよいと思いますが、ともかく怖いことです。

患者の方から「ウィンドーの何かがどうにかなって、薬が出なかったよ」と言われたので、きっと Windows XP 関連のトラブルだと思って私なりに色々と探索したら、やはりそうだったということです。

この場合に考えられる問題は、主に三つありますね。

(1) XP そのもののトラブル（マルウェアの感染、最後の Microsoft Update の失敗）
(2) XP から新 OS へのシステム・データの移行や、新 OS に基づく院内 LAN・ネットワーク構築の失敗（Windows7、8、8.1 や Unix 系 OS への移行の失敗）
(3) 新 OS での作業への不慣れから来る処方の失敗

現在のところ、世界的にも(1)はそれほど聞かれていないですし、今回の出来事も(2)や(3)のようです。

(2)や(3)なら、もはや XP は使っていないわけで、最低限のセキュリティ対策は出来ていることになります。しかし、今後 XP を使い続けて、個人情報などもそれで管理するつもりの病院や公共施設は、常に(1)に見舞われる危険性があるわけで、どうするのだろうと思います。

高齢の患者様のためにも、何とかしてほしいですね。個人情報の流出は、振り込め詐欺の誘発にも関わってきます。

それにしても、前もってこういうことが起きるだろうと予想してか、サポート終了日の 4 月 9 日の二か月くらい前から、XP マシンが大量にある病院の間では、以下の記事と全く同じことが言われていました。なんと、「XP マシンであることの隠蔽の奨励」なのです・・・。

具体策としては、XP 標準の草原の壁紙（”Bliss”）を変えて使うことや、タスクバーを隠すことなどを推奨しています。Unix 系・Mac ユーザーのコミュニティでは、XP ユーザーである各病院がこういう恐ろしいことを推奨して回っているという話は以前からありましたが。

【山田祥平のカウントダウン Windows XP】XP を使い続けるとき、配慮してほしいこと
http://www.nikkeibp.co.jp/article/tk/20140224/385041/

ここに来て IT 関連ライターたちも開き直ったのか（？）、公に推奨するようになりまし

たね。XP であることを隠すことによって患者の精神的負担を和らげるとは、一体どういうつもりだという気がしますが、そういう意識の病院や公共施設が多いのだから、一般の患者さんや利用者はどうしようもないのです。

隠したところで、OS の能力が変わるわけではないですからね。隠さなくて済む OS にしてほしいです。

それにしても、「この XP 騒動のために、XP を残すか残さないかで周りで口論が起きたり、人間関係が悪化したりする光景を見るのは嫌だなあ」と思いながら、「親切な人のパソコンも横柄な人のパソコンも同じように黙って動作するのはなぜだろう」などと、改めて人間の人間性を上回る人間性を見せるパソコンの立派な性格に感心する日々です。（ふざけて書いているわけではないです・・・。本当にそう思います。）

パソコン関連の問題で、何が一番嫌かと言えば、人間関係に影響するという点が一番嫌ですね・・・。毎度そうです。どんなに屈強なセキュリティソフトも、一部の人間関係の悪化というマルウェアの感染は防御できないのです。

それに、改めて思うのは、やはり日本人はスマホへの傾倒とパソコン離れの国民性だなと感じます。スマホの普及率は周辺アジア諸国よりも低いのですが、一つのスマホにインストールしているアプリの数や、ショッピングでの利用率が世界トップです。つまり、ギリギリまでガラケーを買い替えないのに、一度スマホを持つと世界一スマホを使いまくっている国民性というわけです。

どうしてそうなるのか、私も分からず、社会科学・文化人類学的な観点から見てみれば面白いと思うのですが、少なくとも韓国・台湾・フィリピン・ヴェトナム・タイ・インドネシアなどではそこまで極端ではないですね。こんなにパソコンよりもスマホのゲームに時間を費やしている民族は、アジアでも珍しいです。

世界のスマートフォン利用に関する大規模調査「Our Mobile Planet」の 2013 年版
http://news.mynavi.jp/news/2013/07/31/137/

だから、お金に余裕があっても XP を頑なに買い替えないのに、一度 7 や 8、8.1 に変えてみると、これは便利だと使いまくるに違いありません。

でも、今のところは、パソコンよりもスマホの話題には敏感な人が多い一方で、パソコンにはあまり意識が向いていなくて、「XP を使い続けても大丈夫だろう」という人が多い状況だなと感じます。

そもそも、パソコン（ハードウェア・ソフトウェアを含む）とそれ以外の家電に対して、人々の意識が全然違うのは、どうしてでしょうね。

パソコン以外の大抵の家電については、例えば一年～数年の無償サポート期間を超えたら、あとは全てユーザーの責任で、もし壊れたとしても、いきなり家電メーカーに文句を言ったりせずに、まずは「自分が使い方を間違ったり、物理的にどこかにぶつけたりした

かもしれない」と考えるはずです。扇風機が壊れたからと言って、扇風機屋さんやメーカーに無償サポート延長を要求したりしませんよね・・・。

でも、パソコンとなると、すでに何年もの延長での無償サポート期間を経ているのに、さらに無償で延長サポートを要求している事態です。アナウンサーやキャスターが「XP のサポートをさらに無償で延長すべきである」とコメントしたテレビ局まであります。

パソコンは元々、デフォルトの状態からさらに自分好みのソフトウェアをインストールしたりハードウェアを接続したりして、自分仕様に仕上げて作っていくものですから、壊れたらなおさら「自分の操作ミス、自己責任」である可能性が高いわけです。

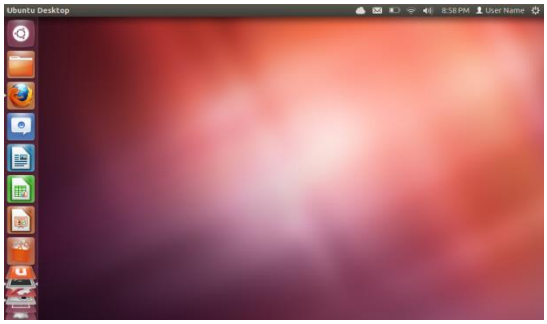
今回の XP 騒動は、結局は、ユビキタス社会に対して日本人という国民性がどう立ち向かっていくかという問題、社会学的な問題としてとらえるべきもので、Microsoft 社という一企業の OS のシェア拡大・IT 戦略としてだけ終わらせるには、勿体ない話題だと思うのですが、どうなのでしょうね。

【画像出典】

Microsoft Windows XP（Wikipedia）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Microsoft_Windows_XP

第八部　Ubuntu 14.04 LTS リリース

2014 年 4 月 25 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）



Windows XP 問題が話題となった 4 月ももうすぐ終わろうとしているが、そんな XP 騒動を横目に、Linux 界では Ubuntu 14.04 LTS（開発コードネーム” Trusty Tahr”）がリリースされた。

私が使用しているのは 12.04 LTS（開発コードネーム”Precise Pangolin”）で、2017 年までのサポートとなっているものの、もちろん 14.04 LTS にアップデートすることも可能ではある。

http://www.ubuntu.com/download/desktop
http://releases.ubuntu.com/14.04/

しかし、Linux ディストロのリリース直後のインストールは、ある種の「人柱」のようなものだと揶揄されるくらいだし、まずは英語圏・欧米圏の開発者やハードユーザーの新 LTS の利用状況とバグの洗い出しの状況を見極めてから、数ヶ月後から一年後くらいにインストールするのがよいと思う。
（Ubuntu の新 LTS のリリースに伴い、Kubuntu、Lubuntu、Xubuntu、Ubuntu Studio などの派生ディストリビューションの新 LTS も直後にリリースされる。）
個人的には、さくらインターネット（サーバー）及び同社が支援している Debian Project に一応微々たる金銭的援助をしていることになるので、Debian から袂を分かった Ubuntu を無料で追っているのも変な気分だな、とは思うが、民主的・職人集団的な Debian と企業的・トップダウン的な Ubuntu との違いというのは、見ていて面白いと思っている。
それはともかく、14.04 LTS の「最低限の」要求スペックは以下の通り。でも、文字通り「最低限」で、本当は快適に動かすためには、もうワンランク（いや、ツーランク）上が必要だったりする。

Pentium 4 1GHz
512MB RAM
5GB ストレージ

今 Ubuntu を入れている自分のマシンのスペックは以下の通り。今後もカーネルの規模がこの調子で安定している限り、余裕があると思っている。

Core2 Duo T8100 2.1GHz×2
2.0GB RAM
ストレージは 80GB くらいは確保しているので余裕

Ubuntu One が無くなるとのことだが、オンラインストレージは、自分用の有料スペースが何十 GB かあるし、相変わらず（Windows ユーザーとのファイル共有がしやすくなければ意味がないという意味でも）OneDrive で十分だし（Dropbox でさえ自分には不要だと感じるし）、おまけに個人情報から企業の機密情報まで何でもオンラインストレージに上げ

てしまう風潮に抵抗がある体質も相変わらずなので、Ubuntu One が無くなったところで全く不便を感じないのが現状である。

これは以前の記事（以下にリンク）に書いた「PRISM 計画」とも関連する。日本のユーザーが上げたオンラインストレージ上のファイルの中身（特に、削除されていないプロパティ・ヘッダー情報など）も、NSA や CIA などによって読み取られているようである。特に、海外の無料サーバーに上げたデータは、なおさらそうだ。（そもそも、日本のユーザーが無料でデータを上げているサーバーは、多くが海外サーバーだ。）

そういうわけで、私は基本的には、オンラインストレージと言えば、国内の有料サーバーを利用している。杞憂と言えばそうかもしれないし、特に犯罪に使われるとは限らないにせよ、かなり抵抗があるので避けている。（備えあれば憂いなし！！）

「PRISM 計画」について書いた記事
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/83596445.html

そういえば最近、JR 東日本が日立などに乗客の Suica 乗降履歴を売ったという報道がなされたが（期限内に決められた手続きをすれば、その人の情報は売らない「とされていた」）、表に出るような話は、まだ序の口なのだと思う。個人情報なんて、国内の有名企業によってさえ無断で売買されていると思っておいてちょうど良いくらいだと思う。

話が脱線したが、ともかく、機能的には今と大差はなさそうだが、Ubuntu 14.04 LTS の Linux カーネルバージョンは 3.13 なので、いずれアップデートすればこの点での恩恵が受けられるかな、といったところだ。

【画像出典】

Ubuntu（Wikipedia）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Ubuntu

第九部　Internet Explorer の脆弱性の件

2014 年 4 月 30 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

昨日ニュースにまでなった IE のセキュリティホールの件ですが、Yahoo!ニュースで「IE」と検索しただけで以下の有り様だし、Microsoft 自身が他社製ブラウザへの一時乗り換えを推奨しているくらいですから、今回はよほど深刻と見たのでしょうね。すでにゼロデイアタックの被害が出ている模様です。

http://news.search.yahoo.co.jp/search?fr=top_ga1_sa&ei=UTF-8&p=IE

しかし、ニュースでも「国内の IE の割合は約 5 割」と報道していましたが、これは本当のところは分からないというか、大雑把すぎる結果だと思うのです。正しくは、「インターネットに接続可能な国内の全ての端末の約 5 割」ということだと思います。

パソコン・モバイル兼用の他のブラウザでは、それぞれのシェアを算出することが多いのですから、IE についても、パソコンでは約 8 割、タブレットでは約 6 割、モバイルではほぼゼロ、と分けて言った方がよいですし、その平均をとると約 5 割だということを同時に言わなければ意味がない気がします。

もしパソコンだけで IE ユーザーが 5 割しかいないとすると、Windows（98、2000、XP、Vista、7、8、8.1）のユーザーが 9 割 5 分もいるのだから、4 割以上の日本の Windows ユーザーがパソコン購入後に IE 以外のブラウザのインストール・使用と、IE の使用停止またはアンインストールをおこなっている計算になりますが、そんなことは考えられないので、やはり「5 割」という割合は、IE のインストールが不可能なモバイル端末を含めた全端末での割合でしょうね。

それにしても、私は普段は Google Chrome、Mozilla Firefox、IE などを目的別に使い分けていますが、IE が他のブラウザに比べて「目に見えて」劣っている（ユーザーとして不満な）点は、先日挙げた WebGL の対応の遅さなど、あくまでもマークアップ言語やプログラミング言語の観点からの技術的なことで、いくらブラウザの使い分けにこだわりがあっても、セキュリティーホールが「目に見える」わけではない点が厄介です。

もちろん、どんなブラウザにも一長一短があると思います。Chrome は当初から傘下の Google+や YouTube と同様、個人情報をひたすら抜いているし、Firefox は、国内の大学・公共施設・図書館システムでの利用が多く、それだけにデータベース経由で情報が漏れやすいし、色々なのです。

しかし、これらはいずれも、ブラウザの欠陥から起きていることではなくて、ブラウザ

に搭載された機能そのものによって起きていることですし、その点で、IE の本質的な危険性とはまた別問題だと思います。

Windows XP 騒動との関係を考えると、今回、Windows Vista 以降の IE8 には修正プログラムが配布される一方で、XP の IE8 は放っておかれるわけで、やはりこうやって XP の危険性が今後も増していくのだと思います。

（追記：5 月 1 日、Microsoft が XP にも特別対応で修正プログラムを配布すると発表しました。）

ところで、時事通信社には「インターネット・エクスプローラー」と「エクスプローラー」の区別がついていない記者が多数いるのではないかと思います。今回も以下のような記事を出しています。（2014 年 4 月 30 日現在、文中の表記は修正されましたが、見出しは修正されていません。）

MS 製「エクスプローラー」使用回避を＝ハッカー攻撃の恐れ―米政府が勧告
時事通信 4 月 29 日(火)2 時 31 分配信
http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20140429-00000004-jij-n_ame

前々から思っているのですが、時事通信社の IT 用語の使い方は、IT 用語を誤るだけでなくカタカナ書きしてみるなど、かなり特徴的だなと感じます。

今回の例だと、「インターネット・エクスプローラー」の使用回避ならまだしも可能ですが、ほぼ「エクスプローラー」の使用回避は Windows 自体の使用回避ですし、そもそも「エクスプローラー」に脆弱性があったら Windows が終焉を迎えそうです・・・。

それから、ゼロディ攻撃などの悪さをするのは、厳密には「クラッカー」であって「ハッカー」ではないのです。しかし、俗語として「ハッカー」とも言いますので、時事通信社だけでなく各テレビ局でも多く用いているようです。

それにしても、なぜか特に時事通信社においては、IT 用語の誤りやこだわりが激しく、その記事タイトルを見てびっくり仰天することが多いので、何だか心臓に悪いです・・・。何とか頑張って修正・統一してほしいです。

【画像出典】

Internet Explorer（Wikipedia）
https://ja.wikipedia.org/wiki/Internet_Explorer

第十部　ブラウザ界の仲間外れ「Internet Explorer」

2015 年 1 月 27 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

先日サイトに載せた以下の 3DCG バージョンの共感覚データベースについて、プログラムをいじっている時から薄々分かっていたことなのだが、案の定、多くのブラウザがある中、Internet Explorer だけで動作しない。厳密には、バージョン 11 では「動作」はするのだが、「3D」にならないので、「3D」のプログラムとして書く意味がない。しかし・・・。

岩崎純一の共感覚データベース（3D 映像操作版）

このプログラムは、Three.js の公式サイトで紹介されている色々なプログラムの組み合わせだが、本来は WebGL を使っておらず css3d を使っているので、IE のバージョン 11 だけでなく、10 以前でも最新パッチを入れていれば、それなりに動くはずなのだ。

WebGL を使って作ってみた共感覚 3D ゲーム（サイトに載せているので遊べます）も、IE11 では動くのだから（10 以前の IE では WebGL は動かない）、今回の 3D 共感覚データベースは綺麗に動いてもおかしくないはずなのだが・・・。嫌な予感が当たった例である。

しかし、これまでも書いてきたように、私のサイトも今はほとんどの方がスマホで見ていらっしゃるし、パソコンで見て下さるほどの熱心な方はすでに Google Chrome や Mozilla Firefox を入れる作業はできる方だろうと踏んで、かなり身勝手なのだが、とりあえずこのまま様子を見ようかと思う。

おまけの話だが、現在のマークアップ言語とクライアントサイドの種々のプログラム（JavaScript や、その応用の jQuery や WebGL）の流れからして、おそらく数年うちには、HTML と CSS と JavaScript だけで、共感覚者が見ている知覚世界の 3D 表現（しかも、閲覧者がいじって遊覧できるもの）ができるようになるだろう。YouTube に重い動画を上げなくとも。

今回私は、それをやろうとしたわけだが、今でも WebGL に敵対心というかトラウマのありそうな IE（マイクロソフト）の対応の遅さだけがネックなのだった。

Windows 10 を無償提供するよりも前に、今あるものを有効利用し、今できることから対応してくれないものかな・・・。

『岩崎純一全集』第五十六巻「科学技術、産業（一の六）」

【関連ブログ記事】

●当サイトの 3D ゲームで遊んでいただく前の準備
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-blog/97556956.html

●WebGL による 3DCG についての技術的な話
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/93504698.html

●アクセス解析データ書庫を公開
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-blog/83132560.html

●ウェブサイト管理者・閲覧者双方の責任と使命、スマホ・PDA 機器の扱い、サーバーの浄化
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/81291993.html

【画像出典】

WebGL（Wikipedia）
https://en.wikipedia.org/wiki/WebGL

第十一部　OS・ブラウザの世界分布から見る中東問題・帝国植民地主義・日本のサイバーテロ対策

2015 年 1 月 30 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

今回の日本人の人質二名（後藤健二氏と湯川遥菜氏）の拘束をはじめ、数々の人質の拘束・殺害において、反西洋であるはずの ISIS（イスラム国）は、現代西洋文明の恩恵であるパソコンかスマホから YouTube に動画をアップロードするという行動に出ているわけだが、そういった「恩恵」、昨今の IT・ユビキタスネットワークの枠組みが、西欧列強の帝国植民地主義による中東分割やアフリカ分割、南米分割にまでさかのぼれる興味深さを見てみたい。

※　以下は、2008 年～2014 年の世界のパソコンやスマートフォン、タブレットの OS・ブラウザ普及率を示した地図やグラフ

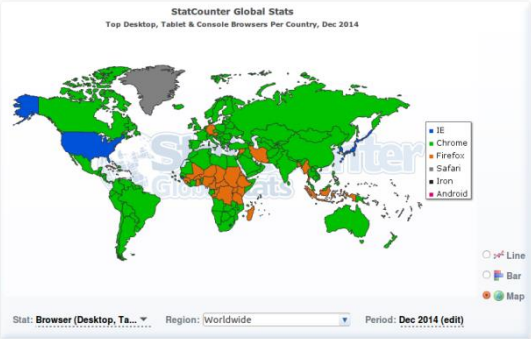
●StatCounter
http://gs.statcounter.com/
（色々なブラウザ普及率地図のうち、このサイトが最も正確だと思われるので、挙げておく。）

◆国ごとの OS・ブラウザのシェア分布は、その時点での言語（公用語）の分布に追随する

私のサイトやブログへのアクセスは、9 割がもちろん日本からのアクセスで（多くがスマートフォン）、パソコンからのアクセスの 9 割は Windows と Internet Explorer（以下 IE）による通常のアクセスであり、残る外国からのアクセス（ほとんどが不正攻撃・マルウェアアタック）はほとんどが中国・韓国などのアジアか欧米からのアクセスだ。

しかし時々、中東・アフリカ・南米・東南アジアからの通常のアクセスや怪しいアクセスもあり、それらを分析したり、先の世界地図やグラフを眺めたりするにつけ、面白いことを感じている。

例えば、ここ十年間に IE が国内のパソコンのブラウザのシェア一位であることが統計的に発表されたことがある国は（というより、統計がとれるくらい都市部の治安が比較的安定している国は）、日本・中国・韓国・アメリカ・イギリス・オランダ・オーストラリアくらいで、これらの国々は同時に OS からして Microsoft Windows「帝国」である。このうち、現在は日本・韓国・アメリカだけが IE 専制帝国として残り、それ以外の国々は Google Chrome 帝国の一員となった。



もっとも、2014 年現在は、世界のほとんどの国で Google Chrome がパソコンブラウザ

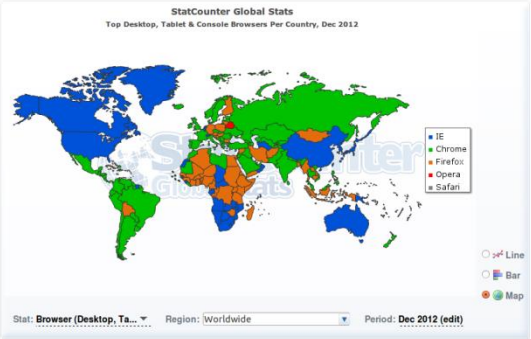
のトップシェアを占めている。これは、OS が何であれ、同じことである。（右図は 2014 年 12 月時点のブラウザ分布地図）

スマートフォンに関しては、必ずしもパソコンの OS・ブラウザの分布に対応していないが、それでもある一定の傾向というものが見出せる。

OS やブラウザ（およびその GUI・グラフィカルユーザーインターフェースやキーボード配置）というものは、その国・民族の公用語たる自然言語の文字体系と最も普及しているプログラミング言語体系を高い視認性・操作性のもとで一般国民が扱えなければ意味がない。

（健全な国民生活は元より、クラッキングとしての使い方においても、例えば、イスラム過激派のパソコンやスマホがアラビア語にとって都合よくできていなければ、効率よくテロを起こすこともできないし、テロリストの目や手が疲れるだけである。）

しかも、中東・アフリカ・南米などでは、現地の民族語・部族語が帝国植民地主義時代に宗主国本国の公用語に取って代わられるなどして、現在では旧宗主国の公用語が公用語として国民に普及している国がほとんどである。



当然ながら、帝国植民地主義の終焉以降、現在のようなグローバル Google Chrome 帝国が形成されるまでの時期に、かつての被侵略国・植民地の OS・ブラウザのシェアが、かつての侵略国・宗主国の OS・ブラウザのシェアに近似する歴史を辿っていることは、想像に難くない。（右図は 2012 年 12 月時点のブラウザ分布地図）

この統計地図からも分かるように、すでに植民地は宗主国の手を離れ、独立国としての IT 戦略を考える立場を得たはずにもかかわらず、新しい OS・ブラウザが発表されるたびに、かつての宗主国と植民地とがそろって同じ OS・ブラウザに乗り換え、別の宗主国文明圏に対して異なるシェアを獲得しているということは、ある意味では、今でも旧植民地は間接的に、宗主国の言語侵略策が形を変えた、穏健なサイバー植民地策のもとに近代化・ユビキタス社会化を模索せざるを得ないことを示している。

良くとらえれば、今の世界的な IT・情報戦争の波の中で生き残るために、とりあえず旧宗主国の公用語に自国の IT システムをマッチさせることは重要なことだと言えそうだ。

◆イギリス・オランダとその旧植民地
「Microsoft 帝国（国民だけでなく、政府自体が Microsoft 至上主義）　→　現在、ブラウザだけ Google 帝国」

日本の「IT 友達」である Windows & IE 帝国のイギリス・オランダから見てみる。
イギリス・オランダ政府と Microsoft との関係は、蜜月と言ってもよい。以下のブログ記事にも書いたが、昨年の Windows XP のサポート切れの際、サポート延長のために Microsoft に金を出すと真っ先に宣言したのがイギリス政府とオランダ政府だったのは記憶に新しい。Unix 系 OS・Firefox が普及しているフランス・ドイツではそんなことはなかった。

●どうとらえてよいのかよく分からない XP 関連のサポート延長情報
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/92810587.html

大英帝国の版図をほぼ継承するイギリス連邦の構成国を上の StatCounter の各時期の地図で見てみると、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、パプアニューギニア、南アフリカ、ナミビア、ボツワナ、ザンビア、ガイアナなど、ほぼ全てで IE がトップシェアを占めたのちに Google 帝国に移行していることが分かる。また、英連邦を離脱したがイギリスの植民支配を受けたミャンマーなども、一時的に IE がトップシェアを占めている。
かつての帝国植民地とブラウザの普及率の高い一致率を見るにつけ、こんなところに現代の大英帝国があったのだと気づかされる。OS だけなら、いまだに Windows 帝国である。事情が違うのは、人口爆発の多民族国家インドくらいのようである。
オランダが植民支配していた南アフリカ（ケープ植民地）、ギアナ、アンティルなども、実に綺麗に IE 帝国の飛び地となってきたことが分かる。今の情報戦争社会においても、とりあえずはオランダ語方言であるアフリカーンス語が通じる旧宗主国オランダの Windows と IE を中心とする IT ネットワークに追随せざるを得なかったからだと思われる。
ちなみに、オランダはヨーロッパ最強の野球チームを持つが、選手のほとんどは旧植民地の出身である。監督が選手たちに、「俺たち本国だけ IE、お前らは別のブラウザで見てくれ」などと言うわけにはいかないのである。
南アフリカ連邦一帯が Windows & IE 帝国になっている現状は、当然オランダ・イギリス白人によるアパルトヘイトの暗黒の歴史を如実に示している。アパルトヘイトの廃止が 1994 年、Window 95 の発表が 1995 年。その頃、都市部の国民言語はすっかりオランダ語・アフリカーンス語（オランダ語の方言）・英語。どう考えても、南アフリカの IT 事情は旧宗主国政府が選んだ Windows と IE の道一辺倒になるしかなかったということだろう。こ

の地域の Google Chrome 化は極めて遅い。

オランダによる最大の黄金略奪地域であったインドネシアでは、長年 IE ではなく Firefox がトップを占めてきたが、インドネシアだけがオランダ語に侵されずに、「青年の誓い」などで海峡マレー語のクレオール方言と言える独自のインドネシア語を頑なに保ち続け、オランダに抵抗したことと関係があるのかもしれない。Firefox は非印欧語、とりわけ非ゲルマン語と相性がよいのである。

◆フランス・ドイツとその旧植民地

「Netscape・Unix 系 OS・Mozilla Firefox 帝国　→　現在、ブラウザだけ Google 帝国」

今でも半ば Firefox 帝国であるフランスの旧植民地を見てみると、こちらも見事に Firefox 帝国である。これらのアフリカの国々では、Firefox をバンドルした Unix 系 OS ディストリビューションの開発が盛んである。（アルジェリア、マリ、ニジェール、コートジボアール、ブルキナファソ、マダガスカル、シリア、カンボジア、ラオス）

とりわけ、中東でずっと Unix 系・Firefox 帝国であるのは仏領だったシリアのみ、インドシナ半島で Unix 系・Firefox 帝国であるのは仏領だったカンボジアとラオスのみであり、かつてのフランス語注入策がいかに強烈であったかを物語っている。

ドイツも後発帝国植民地主義国とは言え、現在はフランス同様 Unix 系・Firefox 帝国であり、その旧植民地も、南ア連邦・イギリスの委任統治を受けたナミビア以外は見事に Unix 系・Firefox 帝国となっている。

Mozilla Firefox は 2002 年に登場、その前身である Netscape Navigator は 1994 年に登場しており、帝国植民地主義時代から見れば遠い未来だが、このブラウザ黎明期以降、アフリカの中で IE や Google Chrome が下火で Unix 系 OS・Firefox がトップシェアを占めてきたのは、Firefox がトップシェアを占めるフランス・ドイツの旧植民地ばかりである。

2014 年現在、ドイツがとりわけ Firefox 帝国であるようだが、そのうち Google 帝国に組み込まれるかもしれない。

◆イタリアとその旧植民地

「Google ローマ帝国　→　現在、そのまま Google 帝国」

ヨーロッパのうち、地中海地方は比較的早い時期から Google Chrome 帝国で、面白おかしく極論を言えば、Google Chrome 帝国は小型の古代ローマ帝国である。イタリア、スペイン、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、セルビアがそうだが、早速イタリアの旧植民地リビアを見てみると、示し合わせたかのように Google Chrome 帝国である。

リビアは、北アフリカ戦線でイタリアが敗北後、英仏共同統治になったにもかかわらず、カダフィ政権のために現ロシアと同じく Google Chrome 帝国になった。きっと、Google が Microsoft と Mozilla のどちらをも倒した珍しい地域ではないだろうか。

同じくイタリアの旧植民地であったソマリアとエリトリアは、リビアのようにイタリア語が通じず、ほぼアラビア語やソマリ語などの原住民語で占められているからか、あまり Google Chrome 帝国になってはいないようである。

◆スペイン・ポルトガルとその植民地

「Firefox 嫌い帝国　→　現在、Google 帝国」

歴史的には順番が逆になってしまったが、スペイン・ポルトガルは当然最古参の大航海者で、一見すると、500 年～300 年後の現代の世界の IT 事情などというものに何の影響ももたらしていないような気がするが、言語侵略という意味では特に南米において成功したのであり、ここでもまた「旧植民地の OS・ブラウザのシェアは旧宗主国に近似する」という法則を免れることが全くできていない。

スペイン・ポルトガルは、全くもって Unix 系ディストリビューション・Firefox が普及していない国で、上記の統計地図によると、ほぼスペインは Chrome、ポルトガルは IE が優勢となっているが、いずれにしてもスペイン語・ポルトガル語に覆われた南米大陸のブラウザのトップシェアを見ると、軒並み Chrome か IE である。

しかし、メキシコやコロンビアやベネズエラやフィリピンやモロッコが Chrome 帝国、アンゴラやモザンビークが IE 帝国である点を見ると、やはり「スペイン語圏は Chrome、ポルトガル語圏は IE」という細分化さえ可能で、300 年前の西葡両国の植民地領域にほぼピタリと対応させることができ、当時本国の言語を入植させたことがいかに今日の南米のユビキタス社会に影響を与えているかが分かる。

しかも、地図上の南米における Firefox 帝国の飛び地を見ると、そこは仏領ギアナであり、フランス本国の情報網やフランス語の記述の利便性に都合のよい IT 戦略によって Google や Microsoft が排除されているのであった。

さらに、スマートフォンのブラウザシェアで言えば、旧宗主国と植民地とで完全一致しているのがこれらイベリア半島と南米で、まさに今 Google Chrome 大航海時代を向かえているのだ。

◆中東

「イギリスの三枚舌外交の通り　→　現在、Google 帝国（一方、シリアとシーア派 IT 網は孤立。いわばサイバー型のサイクス・ピコ協定の完成）」

さて、中東について特記すると、仏領だったシリアにのみ局地的に Unix 系 OS・Firefox が普及していることを先ほど述べたが、中東は基本的には元々Google Chrome 帝国である。一方でイランとその周辺のみが Windows と IE の普及率がケタ違いに高い時期があった上、今でもイランだけが独自路線をとって Firefox に乗り換えている。

イランとその周辺のみの特徴と言えば、アラビア語すなわち言語ではなく、シーア派イスラム教であるということで、この地域のイランの IT ネットワークの孤立は、スンナ派対シーア派の対立に呼応していると言うことができそうである。

イラクは、Microsoft 陣営・Google Chrome 陣営で、Netscape・Unix 系・Firefox 陣営でないことは確かだが、世情が世情だけに、正確な統計はとれないだろう。

◆東欧

「Opera 帝国　→　現在、Google 帝国」

不思議なのが東欧で、ベラルーシやウクライナでは、いまだに Opera が最も普及しているブラウザである。しかし、ロシア、グルジア、アゼルバイジャン、カザフスタン、ウズベキスタンなどはすでに Google Chrome 帝国となっており、Opera がトップシェアである国はいずれ一つもなくなるのだろう。

◆スマートフォン

「現在、大ブロック制」

スマートフォンのシェアについては、スペイン・ポルトガル本国と旧植民地との一致率の高さを述べたが、基本的には大きな地域ブロックごとの分布となっており、パソコンブラウザほどの宗主国と植民地との一致は見せていない。

当然ながら、国家機密情報の管理体制の実状が伺えるのはサーバー用 OS のシェアからで、個人向けスマートフォンのシェアからであるはずがないので、このブログ記事においてはそもそもスマートフォンのシェアを取り上げる重要性は低いかもしれない。

大まかに見て、日米露豪は iPhone、東欧と中東は Android、アフリカとインドネシアは Opera、中印が UC、南米が Chrome である。

◆日本

「過去も現在も、Microsoft 専制体制受け入れ国。それなのに、スマホでは iPhone 陶酔国。

Google 帝国の支配を免れ、アメリカを愛する、平和な Yahoo!万歳国」

日本は、先に挙げた中国・韓国・アメリカ・イギリスなどの Microsoft 帝国の中でも、とりわけ Microsoft 専制君主国であると言える。IT マニアを除き、国・政府から一般家庭までのほぼ全てが Windows & IE で成り立ってきたので、仕方がない。

一方で、スマートフォンでは、iPhone 帝国であり、端末間に OS・ブラウザ・用途などの断絶がある珍しいユビキタス社会を形成している。

日本の「情報収集の努力と健気さ・一生懸命さ」は世界屈指としても、「諜報活動能力」や「サーバーテロ対策」は極めて遅れていて、奇しくも、今回の人質事件が起きる直前に内閣サイバーセキュリティセンター（NISC）が設置されたり、各種官公庁機密文書を電子化する試みが続けられたりしているものの、日本政府はほぼ自国民が Windows & IE で閲覧し、Yahoo!で検索することしか想定していないようである。

例えば、防衛関連機密文書から各種法人が年度ごとに政府に提出するべき事業報告・財務諸表までもが、郵送から電子提出への移行の対象になっているが、そのほとんどについて「OS は Windows、ブラウザは IE でお願いします」と政府が懇願する事態だ。

これら日本の情報セキュリティ・NISC ・CIRO・e-Japan・IT 戦略本部などの各機関は、警察や自治体職員の出向機関にすぎないものが多く、全部足してもアメリカの CIA や DARPA の一角程度にしかならない。

国家・企業機密の扱いが、個人のネット税務申告やふるさと納税の扱いと IT レベルではほとんど同じだということが言えそうだ。Windows や IE に致命的なバグが発見されたりサイバーテロが起きたりした場合に、自国や自社の機密データに咄嗟に Unix 系クライアントシステムからログインすることができない。もし今回の後藤健二氏のような人質に一瞬の余裕ができたとして、現地のシステムから政府宛に満足に情報を送ることができない。あるいは Windows 文化が希薄な国・地域に日本の何が漏れているかが自国で分からないのは、かなり危険である。

◆サイバーテロリストたちが見せる「自己言及のパラドックス」

ISIS は現在、イギリスの「三枚舌外交」、特にサイクス・ピコ協定の打破を謳っているが、自らが「西洋文明の恩恵」である IT ネットワークを駆使している以上、それは反西洋的・純イスラム的どころか、帝国植民地主義とサイクス・ピコ協定の有効再利用だと言える。それを自ら壊そうというのは、論理矛盾であるように見える。

さて、後藤健二氏の映像は、どのメーカーの OS のどのブラウザからアップロードされたものだろうか。それとも、自作パソコンだろうか。少なくとも、動画を YouTube に挙げたのだから、サーバーのあるアメリカと Google の恩恵を受けていることになる。いずれにし

ても、欧米の帝国植民地主義の系譜を引く現在のユビキタス社会の「おかげ」で可能な行為だ。

【関連ブログ記事】

●ブラウザ界の仲間外れ「Internet Explorer」
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/112725440.html

●Internet Explorer の脆弱性の件
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/94884182.html

●どうとらえてよいのかよく分からない XP 関連のサポート延長情報
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/92810587.html

●サイト閲覧推奨環境などを掲載
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/80368836.html

●XP マシンの隠蔽が推奨される中、早速 XP 関連トラブルで一部の病院の機能が停止
https://iwasakijunichi.net/iwasaki-j-ict-blog/92905589.html

【画像出典】

●StatCounter
http://gs.statcounter.com/

第十二部　魔の Windows 10 無料アップグレード期間

2016 年 5 月 28 日　起筆、擱筆、公開
（2018 年 7 月 14 日追記：現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

現在のところ、8 台の Windows 7 マシンを Windows 10 にアップグレードし終えた（自分のパソコンの 1 台を含む）。2016 年 7 月 28 日に無料アップグレード期間が終了するのに伴い、本業システムエンジニアではない臨時システムエンジニアたる私に駆け込みアップグレード依頼が来ているためだ。2014 年 4 月の Windows XP のサポート終了の時以来の私の「テクノ鬱」、「テクノ神経症」期間に、今こそ突入だ。

と言いながら、実はアップグレードを勝手に依頼されたのではなく、いつもの私のご親切な真心が「発症」し、「もうすぐ Windows 10 の無料アップグレード期間というものが終わりますが、どうしますか？」と私のほうから尋ね、「知りませんでした！！　じゃあ、お願いします」ということになったわけだ。

ただし今回は、Windows 7 以降の Microsoft OS を搭載したパソコンの画面右下に、魔の Windows 10 アップグレード推奨画面が現れ、次に「今すぐアップグレードしますか？　それとも今夜アップグレードしますか？」という二者択一の強要画面が現れ、しまいには勝手にアップグレードが始まることになったから、気づかないユーザーはいないはずではないか。

という点を私は逆手に取り、今回担当しているパソコンの多くについて、魔の Windows 10 アップグレードが勝手に開始されないように（使用者から私に逐一問い合わせが来ることで双方が疲れないように）設定していた。その上で、自分の予定帳に無料期間の終了日を書いておき、そろそろ声をかけるべき時だと見計らって声をかけたわけである。多くのパソコンを担当している人は、この手法を使ってみると便利だと思う。

確かに、最近言われているように、Microsoft の手法は「アップグレードの強要」に近いし、以前のように独禁法への抵触問題もまた浮上しそうなものだが、回避手段が一つでもある以上、完全な強要とは言えないことになる。無論、Microsoft はギリギリのところを狙っているとは思う。

ただし厳密には、「勝手に Windows 10 になる」ことは、今までもなかったし、今でもない。全てのケースで、「どこかで自分で Windows 10 にしてしまっている」というのが現実であり、皮肉なのだ。そこにあるのは、あくまでも「強要と感じられても無理はない」という我々人間の感情のみであって、感情を取り除き冷静になって観察したところの技術的な面では、「強要だ」と断言することは今でも難しい。

さて、今回もまず、リカバリディスク、システム修復ディスク、回復ドライブ、システムイメージ、外付け HDD のデータなどを作成・保存してから、アップグレード。メーカーが富士通、NEC、HP、DELL など色々なので、それぞれの違いが分かって面白いのだが、相変わらずアップグレード担当者が知識を得たり、人のパソコンの中身を見てしまうだけで、それ以上でも以下でもない作業である。

ただし、今の社会状況から考えるに、担当者が犯罪者だったらこの人たちはどうするのだろう、とは思う。いつもこういう時に私が感じるのは、作業の面倒さよりも、むしろ人

間の犯罪心理や、利便性への終わりなき欲求、業（ごう）の深さ、不安感の成り立ちや人間どうしの信頼の仕組みの不思議さなどである。そもそも、哲学出身の私としては、アップグレード中はそれくらいしか考えることがない。というよりも、最初からそういう問題意識のある人間だから頼まれているのだと、そうありがたく思って、人のために作業する次第である。

さて、以前に個人データの外付け HDD への保存方法を教えてから使用者がその通りにしてくれている場合や、システム関連ディスクやソフトのインストールディスクをきちんと保存してくれている場合、インストールソフトが少ない場合などは、あえてシステムイメージを作成しないなど、使用者の使用状況によって作成するものを変えると、使用者の財布も自分の労力・時間も浪費しなくてすむわけである。

ただし、パソコン以外のどこにもデータを保存していない場合や、パソコンのことを色々と説明しているうちに使用者が疲れてきたと私に感じられた場合や、「ディスクやドライブを間違って捨てそうで不安なので、全部をお任せします」と頼まれた場合には、リカバリディスク、システム修復ディスク、回復ドライブ、システムイメージ、外付け HDD を全部私が管理することになるのであった。

幸いなことに、少なくとも私の周りでは、Windows XP のサポート終了の時よりも、大きな問題は発生していない。